

# 市長提案説明要旨

令和3年6月3日

本日ここに令和3年第2回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出いたしました議案などの説明を申し上げます。

## 《はじめに》

### ＜新型コロナウイルス感染症の情勢＞

第4波となる新型コロナウイルス感染症の状況につきましては、特に感染が急拡大した都道府県への「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」等の発令により、地域差はあるものの、全国的な新規感染者数については減少傾向にあります。しかし、依然として高い水準にあり、重症者数の増加、新たな変異株の流入などもあり、予断を許さない状況が続いています。

茨城県におきましても、この間、27市町村を県独自の感染拡大市町村に指定し、現在、新規感染者数は減少してきておりますが、変異株の割合の増加、散発的なクラスターの発生もみられ、県の指標である「茨城版コロナNext」は、依然「Stage 3」にあるなど、厳しい状況にあることに変わりはありません。

本市についてみると、5月中旬には、1日に5名の感染が確認されるなど、新規感染者は増加傾向にありました。その後は比較的落ち着いていますが、近隣市では複数の小中学生の感染者が出ていることなどから、本市においても、しっかり注視していかなければならない状況にあるものと考えております。県下において引き続き感染予防の強化が求められる中、先月21日には茨城県からの要請に基づき、「いばらきアマビエちゃん」に登録している飲食店の感染予防対策の状況確認として、市内約300の店舗への訪問を実施いたしました。私も職員と実際に店舗を訪問させていただき、手と指の消毒の徹底やパーテーションの設置など、各店それぞれに工夫をして営業されていることを確認させていただきました。時短営業など非常に大きな打撃を受けている中、飲食店の皆様の御協力に改めて感謝申し上げますとともに、今後も引き続き感染防止に努めていただきますようお願いいたします。

ワクチン接種につきましては、65歳以上の高齢者を対象に、先月26日から28日にかけて、予約の受付を実施いたしました。接種見込率は施設入所者を含め81%となり、市民の皆様の期待感の高さを伺い知ることができました。一方で、想定以上の接種率の高さから、全高齢者へのワクチン接種を7月末に完了するとした当初計画におきましては、一部の方は8月中の接種になります。ワクチン接種につきましては、今後とも、順次対象となる方々へ接種がスムーズに進むよう、全力を

挙げて取り組んでまいります。

そして、この間、見えない恐怖のなか、長きにわたり最前線で献身的に対応に当たられている医療従事者の皆様には、心から感謝し、改めて御礼申し上げます。

また、市民の皆様におかれましては、引き続き感染予防対策を徹底していただきますよう重ねてお願いいたします。

### <日鉄関連>

本年3月5日に発表された2025年3月を目途とする日本製鉄株式会社東日本製鉄所鹿島地区の高炉2基のうち1基の休止発表は大変な衝撃でした。日本製鉄は、本市にとりましては共に発展してきた相方であり、大きな不安と同時に寂しさも感じました。

この生産設備の縮小は、関連会社を含めた雇用及び地域経済、そして市民生活へ甚大な影響を及ぼすものであります。

本件につきましては、茨城県並びに近隣自治体としても非常に大きな問題であることから、大井川茨城県知事を本部長とする合同対策本部が設置されております。発表を受けて早々に、高炉の稼働継続や残る高炉1基の長期的な稼働、地域経済や雇用への影響を最小化するための措置、あるいは水素還元製鉄や電炉等の技術開発、洋上風力発電関連産業の集積に向けた取組への参画等の積極的な検討について、更にはカーボンニュートラルポートの形成等の港湾機能の強化の積極的な支援について、茨城県並びに神栖市とともに同社をはじめ関係省庁に対し要望してまいりました。

発表後、現在まで日鉄関連の相談件数は、本市においては2件、ハローワーク常陸鹿嶋では17件となっておりますが、今後具体的な動きがある中で、増えていくものと考えられます。

本市といたしましては、引き続き茨城県・神栖市と連携しながら、鹿島臨海工業地帯の活性化を目指し、後背地、未利用地の積極的な活用等を含め、新たな産業の創出や実証実験の取組等について関係機関へ働きかけるとともに、日本製鉄の動向を注視しながら、適時必要な体制を執ってまいります。

### 《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、御説明申し上げます。

## (スポーツでつながるまちづくり)

来月4日には聖火リレーが、そして23日にはいよいよ東京2020オリンピックが開幕します。

「鹿島神宮」から「カシマスポーツセンター」がルートとなる本市での聖火リレーにつきましては、皆様へ“ぜひ応援に来てください”とはなかなか言えない状況にあります。しかし、この日を待ちわび、長い隊列車両を従え一定区間を走行されるランナーの皆様には、この地で誇りと一生の思い出を作っていただきたいと思えます。また、実施にあたり、御協力いただくこととなります多数のボランティアの皆様にとりましても記憶に残る貴重な経験となることを御祈念申し上げます。

茨城カシマスタジアムにおいて開催される東京2020オリンピックサッカー競技につきましては、オリンピック開幕前日の22日から8月5日にかけて、男女合わせて8日間11試合が開催されます。男女それぞれ4カ国による予選組み合わせも決定し、スタジアム周辺では着々とネットワーク設備等の仮設工事が進んでいます。また、先月20日には、県内から関係機関が集まり、テロを想定した災害対応実動訓練も行われております。

観戦客数の制限の決定が今月中になるなど、未だ不透明な状況にはありますが、本市としましては無観客となった場合を考慮しながらも、観客が入ることを前提に、JR鹿島神宮駅周辺やまちづくり市民センターにおける受入れ事業を、より安全度を高めながら準備してまいります。そして、この状況においても活動の継続を希望された120名のボランティア並びに協力団体の皆様に対しまして、この場をお借りしてお礼申し上げますとともに、改めて期間中の御協力をお願い申し上げます。

海外観戦客の受入れ断念など、当初想定していたオリンピックの形とは様変わりしてしまいますが、開催に際しては、対戦各国の選手及びチーム関係者や各国のメディアにより「カシマ」の名前が世界に発信されることになり、当地でのオリンピック開催が「カシマ」ブランドの形成につながることを確信しております。

また、計画している市内小・中学生の競技観戦は、子どもたちにとってかけがえない経験となります。開催都市に住んだ喜びを感じてもらい、郷土愛の育みにつながるものと期待しております。

## (未来を創るひとづくり・まちづくり)

本年4月の待機児童に関しましては、民間保育所の保育施設整備への支援等の取組による保育定員の拡大により、令和2年に続き、ゼロを達成することができました。今後とも、各民間保育所と連携を図り、引き続き待機児童を出さないよう努めてまいります。

市内小中学校におきましては、本年度より、一人一台端末の活用が本格的にスタートしました。

端末につきましては、ドリルソフトによる家庭学習、並びに学校と家庭の新たな連絡ツールとして活用するため、家庭へ持ち帰っていただくこととしております。今後、一人一台端末のより有効な活用へ向け、授業を担当する全教職員対象の研修とともに、各学校にICT推進リーダーを育成し、主体的・対話的で深い学びの実現に努めてまいります。

今般、株式会社鹿島アントラーズFCの全面協力のもと、小学1，2年生向けのTPRの動画教材を制作いたしました。TPRは日本語で「全身反応教授法」と言われるもので、指導者などの英語の指示を聞いて、体全身で反応し、理解する指導法になります。TPR教材の自治体独自の制作は例がなく、プロスポーツクラブとの連携は、極めて独自性の高いものとなります。

憧れの鹿島アントラーズの選手が、英語教材に登場することにより、子どもたちに英語への興味をより一層持たせることができ、英語教育の充実が一層図れるものと期待しております。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた子育て世帯への生活支援として、国の生活支援特別給付金の支給を進めております。今年度は、これまでひとり親家庭への給付金の支給を一部実施してきました。今後は、ひとり親以外のその他の子育て世帯のうち、非課税の子育て世帯へも給付金を支給してまいります。

「宮中地区賑わい創出事業」において整備予定の「子育て支援施設」につきましては、令和5年4月の開園を目指し、今年度は子育て世帯へのアンケート調査の集計内容を踏まえた施設の機能の基本的な方針を検討したうえで、基本設計・実施設計を行ってまいります。

また、令和6年4月開館を予定する「歴史資料館」の整備につきましては、今月中にも学識経験者をはじめとする関係者を委員とした「歴史資料館建設検討委員会」を設置し、施設の基本的な方針や展示内容など、整備にあたって必要な事項の検討を進めながら、基本設計を行ってまいります。

あわせて、関鉄バスターミナル跡地に整備を予定している「駐車場」につきましては、実施設計が完了し、令和4年1月の供用開始に向け、整備工事の準備を進めております。

## (地域資源を生かしたまちづくり)

本市の代表的観光資源のひとつである、夏の海水浴場は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年は開設することが出来ませんでした。今年度は開設へ向けて鹿嶋市観光協会やかしまライフガードチームなどの関係団体と調整を進めております。平井地区での防潮堤の工事やライフセーバーの確保等課題があり、一部開設期間の短縮や海水浴場の規模の縮小等も視野に入れながら安全で安心な海水浴場の開設に努めてまいります。

同じく昨年中止した「鹿嶋市花火大会」につきましては、感染拡大の収束が見えない中での開催は難しいとの判断から、例年の8月開催を延期することといたしました。今後一般の方へのワクチン接種も順次進むことが見込まれることから、状況をみながら秋以降の開催について関係機関と調整してまいります。

先般、茨城県が「いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出プロジェクト」を始動させることを発表いたしました。臨海部でのカーボンニュートラル産業の拠点化へ向け二酸化炭素を出さない水素やアンモニアを使う火力発電や「ゼロカーボン・スチール」生産などの実現を目指すほか、水素や洋上風力発電といった新エネルギーの供給体制の整備を支援することとしております。その第一歩として、鹿島港や茨城港の立地自治体を「カーボンニュートラルビジネス促進区域」に設定し、機運醸成を図るとともに、各種調査を実施し、新産業の創出に向けた具体策や港湾の脱炭素化に向けた計画の策定を予定しております。

特に洋上風力発電は、2050年カーボンニュートラル実現の“切り札”と称されています。その基地港湾に指定された鹿島港・外港地区においては、洋上風力発電設備の効率的な輸送・保管・建設等を可能とし、千葉県銚子沖を始めとする太平洋沿岸の発電ポテンシャルエリアにおける導入促進を図るため、水深12mの耐震強化岸壁やふ頭用地の地耐力強化等、基地港湾に必要な施設整備がスタートしました。

国土交通省鹿島港湾・空港整備事務所によると、総事業費は47億円に及び、令和5年度末の完成を目指すとしています。

本事業の実施により、洋上風力発電設備の陸上でのプレアッセンブリ（仮組立）や、効率的な作業台船への積み込み等が可能となり、大幅なコストダウンにつながるなど、洋上風力発電設備の導入促進が見込まれます。また、保管やメンテナンス等の関連産業の立地等により、雇用創出効果が見込まれるなど、地域経済の活性化も期待されております。

本市としましては、関係機関との連携を更に強化しながら洋上風力発電拠点を始めとした新しい産業の創出及び拠点化を目指してまいります。

## (住んで安心のまちづくり)

新型コロナウイルス感染の有無を確認する検査である「抗原定量検査」を昨年度に引き続き実施いたします。今年度は対象者を「高齢者・基礎疾患を有する方」から市民全体に広げ、検査予定人数を2,000人へ大幅に増やします。

ワクチン接種が先月24日から開始されておりますが、市民全員の接種が終了するまでにはまだまだ時間を要します。それまでは、感染拡大が起こる可能性も否定できず、無症状の方の早期発見・早期治療を行うことにより重症化予防を図り、個人の命と合わせ医療崩壊を防ぐことを目指してまいります。

今年度の長寿をたたえる事業（敬老会事業）につきましては、現時点で、新型コロナウイルスの収束は未だ見込めず、市民へのワクチン接種の進捗状況からも、対象となる方を式典に御案内しての敬老会を実施することは困難と判断させていただきました。感染症から高齢者の健康と安全・安心を守ることを最優先として、昨年同様、メッセージ及び衛生用品の送付のほか、市内の飲食事業者の経済支援を合わせた長寿祝い膳事業として食事券の送付を行うことといたしました。

なお、コロナ収束後の敬老会事業につきましては、これまで本市の礎を築いてこられた高齢者の皆様に対して最大限の敬意と感謝の意を表す事業として、また、地域の多くの方々が参画し実践する地域福祉推進事業として実施していくことを基本として据えつつも、これまでの実施方法では参加率や式典会場の収容人員など検討しなければならない項目も多々あることから、対象となられる方々の御意見はもとより、各関係者団体などからも御意見を伺い、あり方を考えてまいります。

先月6日、本市とヤマト運輸株式会社との間で、配達時や移動中に高齢者や障がい者の安否が疑われる状況を発見した際の通報や、子どもの見守り等を行っていた「見守り活動等への協力に関する協定」を締結いたしました。

先に締結しております日本郵政株式会社や株式会社セイミヤとの見守り活動の協定と合わせ、民間事業者と連携を図りながら、多くの見守りの目を持って、市民が安心して暮らせるまちづくりを推進し、地域福祉計画の基本理念である『共に創る みんなで支え合う 福祉のまち かしま』の実現に取り組んでまいります。

資源循環を市民・行政・事業者が一体となり推進する新規リサイクル事業の第一歩として、先月12日、本市とサントリー食品インターナショナル株式会社及びサントリーMONOZUKURI エキスパート株式会社との間で“持続可能な資源循環型社会の形成に向けた「ボトル to ボトル」水平リサイクルに関する協定”を締結いたしました。本市が収集するペットボトルの100%循環利用と二酸化炭素発生の抑制を図り、ごみの「資源化」及び「減量化」を目指してまいります。

また、本協定の締結に伴いまして、より一層の資源回収を図るため、令和4年

4月から分別及び収集方法が変更になりますので、市民の皆様には、御協力いただきますようお願い申し上げます。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

## 《提出議案等》

次に、提出いたしました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が1件、人事関係議案が14件、契約関係議案が1件の、合わせて16件であります。

まず、予算関係議案は、令和3年度の一般会計の補正予算であります。

既定の予算総額に、歳入歳出それぞれ4億1,006万1千円を増額し、総額を241億6,968万1千円とするものです。調査委託料などによる企画調整事務経費の増、鹿島アントラーズホームタウン支援金によるホームタウン推進事業の増、災害対策経費の増などを計上いたしました。

人事関係議案は、「鹿嶋市農業委員会委員の任命について」であります。

契約関係議案は、「中野東小学校大規模改造建築工事（北校舎）請負契約について」であります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案につきましては、総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。